

心耕

12月号

朝、一瞬、障子に鳥の影を映った。
今年も来てくれた。北の国からツクミ。

心 耕

今日の行事

○十二日(日) 常例法座 午後一時ヨリ

一はじめの一步一

○二十六日(日) 日曜法座 午後一時ヨリ

一はじめの一步一

会経会

10日 13:00~

三喜みの

勉強会

1日 18:00~

12日 10:00~

となた様も
御遠慮なく

例年ですと、年の瀬は、餅つき、七ヶ焼

七年会と慌ただしく賑やかに過ぎ

したものです。コロナのせいで大人し

く新しい年を迎えたいと思えます。

御晨朝 毎朝六時半より

おあなこじ

十一月・霜月。飯講が終わり

た翌日の朝、お寺のまわりは、

シリと霜が降りていた。さすが

霜月二十九日。冷え込んだのだ。

カレンダーを覗くと、十二月四日

が旧暦十一月二日になっていた。

今年の霜は早いのだと、勝手に思

い込んだ。

コロナが随分落ち着いて、七

会やらカラオケ、楽しいことずい

ぱいと浮かれかけた。コロナニ

タイプが登場。これから又どう

なるか、しつこく即だてゲンコ

ツひとつ喰らわしたくなる。これ

で丸二年も続いたことになる。

今から五百二十三十前の流行り

病は、七、八年も続いた。記念ある。応仁の乱の後、戦国時代初期の頃である。ナンカンが、ナンカンが

今日である

あること難き

今日である

藤代總彦

東本願寺では著名な僧侶であつたお方です。残された言葉に「これまでが、これからを決めるのではない、これからが、これまでを決めるのである」という有名な一節があります。変えることのできない過去の事実には支配されることがなく、これからどう生きるかによって過去の意味を転換させることが出来るという力強い言葉です。私は何のために生きているのか、真剣に考えてみよという催促です。

一日は永い、しかし一年はあつという間である、と俗に言われます。多くの人の実感でありましょう。けれどもよく言われる「同じ雲は二つとしてない」「同じ波は二つと

してない」と同じように、一日として同じ日はないのです。日暮らしを当たり前の連続としか考えずに退屈に過ごしてしまふので、一日は永い一年は短いなどと言えるのです。

コロナは毎日と同じではないということは今でも教え続けています。コロナ次第で毎日が変わります。人は翻弄されるばかりのように見えます。人は生まれたら死ぬ。死んでおしまいなのさ、とやけっぱちの情けなさは常に人を優しく招きますが、ナンマンダブ一つ、そうじゃないのだと教えてくれます。

あること難きをあり難いと優しく言うこと受け取り方も随分変わります。そして当たり前ではなくあり難いことだつたと気づけば毎日随分と変わるはずです。

九州から京都へ上つた私がバイト先の中華屋で最初の言われたことが「必ずおおきにいうてくれ」でした。ナンマンダブナマンダブ

犠牲

ジヤータカや、前生譚
など、お釈迦様の前世の
物語を見ると、自らを

犠牲にして他をすくう物語がしばしば見受けられます。

ある時は、虎の子をすくうために自らの身体を差し出
す。兎の時には、老人をすくうために火の中に飛び込ん
で食べさせようとする。

この犠牲的行為は、捨身ともいい布施の最上のもので
されています。仏教では、不殺生戒といい、生命を殺め
る事は禁止されていますが、仏に供養し他をすくうため
であるならば、捨身という布施として許されているので
す。

ただ、犠牲の目的を誤ると恐ろしい事にもなりえるの
です。相手をすくうために自らが犠牲になる話はたくさ
んあります。ところが、教団を守るために犠牲をおおる
ことは経典にはないのです。後者を、教団として行って
いたことがあります。「進めば極楽 引けば地獄」と戦
場へと送り出した過ちがあります。

守るべきものを度々確認しなければなりません。仏法

は我が身を映し出す鏡なのです。教団
も例外ではありません。



ミニトマトがまた
花をつけている
茗荷取

こんなところに 仏教用語

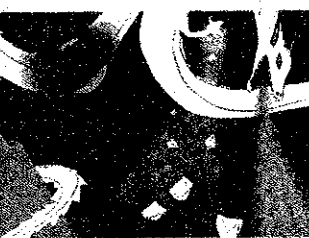
用教仏近
語紹介
して
います。

奇跡

奇跡：常識では考えられない
神秘的な出来事。超自然的現
象

因果を説く仏教において、奇跡はあるのかと問われると奇跡
的表現はあると答えます。ただ、死者が生き返ったりするなど
の、諸行無常の道理をはずれるようなものではありません。あく
までも悟りへと導く手段の一つとして、神通力を用いるので
す。時には変化し人々を導き、時には月の光として病を癒すな
ど多岐にわたります。

奇跡的表現は、後に創作されたものが多く、お釈迦様以外に
も親鸞聖人蓮如上人にも常識では計れない言い伝えが各地に
残されています。これらは、民衆の信仰の中で尊敬の念から超
人的表現が創作されてきたのです。現実では考えられない話も
多いのですが、伝説というのは、真偽を問うよりも、何故この
ような伝説が誕生したのか、残されてきたのかをたどる方がは
るかに大切です。



そして、お釈迦様ご自身は奇跡や神通力を
見せびらかすことを否定されました。弟子に
頼まれた時に「神変には害がある。それより
も人びとを真実に導く教化こそが奇跡なの
だ」と言われました。



法座案内

十二月十二日(日) 十三時〜

はじめの一步 第五回

正信偈ついて、一から学ぶ会です。

十二月二十六日(日) 十三時〜

日曜法座

節談説教「臨終の善悪」梅若丸伝

説く 若住職担当

一月一日(土) 十時〜

元旦会

新年会は行わず、勤行のみです。トホホ・・・

一月十六日(日) 十二時〜

御正忌オンライン参拝

西本願寺の報恩講の様子を西光寺で上映してお参りします。

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半〜七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・写経会 十日(金) 十三時〜 一月休
いつでも誰でも始められます。

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 一日 十八時〜 一月休
婦人会 十二日 十時〜 一月休

・Youtube 西光寺チャンネル更新

節談説教の配信しました！一月には新作紙芝居を配信予定です。是非登録を！

・愚痴聞き場「あみだぐち」

若手僧侶で愚痴聞き場をラインで設けています。以下からアクセス！

・各行事について

感染症予防にご協力をお願いいたします。

・一月の心耕はお休みです。



年回表	往生年	西暦
一周忌	令和三年	二〇二一年
三回忌	令和二年	二〇二〇年
七回忌	平成二八年	二〇一六年
一三回忌	平成三二年	二〇一〇年
一七回忌	平成三八年	二〇〇六年
二三回忌	平成四十二年	二〇〇〇年
(二五回忌)	(平成四十年)	(一九九八年)
二七回忌	平成八年	一九九六年
三三回忌	平成二年	一九九〇年
五〇回忌	昭和四八年	一九七三年

聞法

この度、多くの方々から文字が多すぎるなどの指摘を受けましたので、今後は極力空間等を設けて作成してみたいと思います。今までは一つの言葉に多くの読み方をされる中、なるべく誤解が起こらないよう配慮するため、ついで、文字が多くなつてしまいました。また少ない紙面の中に多くの情報を盛り込むのも私のスタイルでもありました。しかしながら皆さんのご意見を反映するために文字数を減らし実験を試みたいと思います。

人間は、人によつて見方の方向が異なることがあります。言葉や文字による刺激により、がぶ飲み、ちよい飲み、つまみ食い等様々であります。お軽や才一等の妙好人が、聞法を多くして、多くの情報に^{ことば}つかりながらも、たった一つの情報に^{信知して}うなずいて全体が見えてきたのであります。

今から二千五百年前に仏陀が多くの弟子のの氣質に合わせて八万四千の法門を説いたと言われていますが、そのことは、たった一つの「南無阿弥陀仏」を指し示しているだけなのです。であれば八万四千の法門の全部を^{りようげ}了解する必要は全くないのです。たった一つの言葉に引つかかれば、必ず「南無阿弥陀仏」にたどり着くのです。このように人

間は人それぞれ色々な方向性の中で生きています。ですから真如法性・証妙果を指し示すために仏陀や多くの高僧たちは方便として多くを聞き語り伝えてきたのです。

親鸞聖人は二十九才の時、比叡の山を下りて百日間も雨風を問わず法然聖人の下へ聞法に通われました。法然聖人の言葉を多く聞き、また人々に接する様子を見ていて、「ああ！これなんだ」と合点したのが百日目ではなかったのではないかと思われれます。当時の有名人だということや念仏の流行の兆しとか、他の人に誘われたとかで法然聖人の弟子になつたのではなく、その言葉や行動に合点して弟子になつたのではないかと思うところでもあります。三百八十余の弟子を有する法然聖人もまた、親鸞聖人が毎日来るのを見て、その聞き方、行動や座の位置等を逐一ご覧になつて、やつと真仏弟子が来たことを喜ばれたのだと思います。

ある日突然、合点するように日頃の聞法が欠かせないものなのです。仏道だけのことでなく、ガッテンやチコちゃんのように聞いているだけで納得してしまいます。同じように仏陀が語り、それを聞く人がいたことが仏道の始まりであり、これからも続いていくことなのです。

住職多感

調子が悪い。パソコンの前に座って六時間、一行も書きだせない。締め切り時間は一時間もない。気は焦る、だがどうにもならない。

こんな時には奥の手「どうにでもなれ作戦」周りのことを書き連ねていくのだ。南の強風が吹いて少し暖かい一夜がもう明け。坊守はもう本堂の戸を開けて台所で忙しい。「心耕」の発送作業のお昼は手作り、何日も前からメニューを考えている。今回は豚肉の生姜焼き・キャベツ・玉ねぎの炒め物・ひじき田子。コロナが始まる前までは本堂で賑やかに食べていたのだけれど、今はお弁当。

眠たい。もう一息頑張らねばならない。この原稿が仕上がって、他の出来上がった原稿を合わせて印刷用紙面にしてそれから印刷。これがスムーズに動かないときがある。殆んどが私のミス、そして雑さからきている。雑で怠け癖がある。これだから一日早く仕事をしたらとたびたび言われる。分かっ

てはいる。でもいつもこうなってしまうのだ。それで出来はどうだと問われると、まるつきり自信はない。疲れれば疲れるほどに、眠たくなれば眠たくなるほどに誤字脱字も増えてパソコンの画面を見直すことになる。そのうえパソコンを打つのが遅いと来ている。

下の娘が帰ってきたときに、「辞書のここからここまで打ってくれ」頼むと十四五分で打ち上げてくれる。私だと三時間かかる。遅ければまた気も散りやすい。南の風が一段と強くなってきた。雨も降っているようだ。今日の資源ごみを出すのは中止にしておこう。あと四時間印刷が出来上がった後は任せてやっと眠れる。

こんな時でも御晨朝だけは勤めるのです。ああ、今朝のお勤め間違いなく読めるかどうか五分五分というところか、私が間違っても阿弥陀さんが間違つて下さらん。もうそれだけがたより。

ナンマンダブナマンダブ

正月の行事

○一日：元旦会

午前 十時より

○十六日：御正忌

午後 一時より

※本山御正忌報恩講は一月九日と十六日に勤まります。西光寺からは、お盆と、地蔵さん・三島之夫婦とれた住職夫婦が多参ります。

発行

浄土真宗 本願寺派 (西)

西光寺

〒二九〇一〇〇二四

千葉県市原市根田

七三三二一

TEL. 0436-22-7412

FAX. 0436-24-1652

HP. <https://www.saikohji.net>

MAIL saikohji@hb.tpl.jp